

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
大田原市	佐久山地区 (佐久山地区)	令和3年3月25日	令和6年3月19日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	401.34 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	328.27 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	113.06 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	42.7 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	57.90ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<p>荒町地区では、4つの開田地帯があり、水をポンプアップしているため管理費が膨大にかかる。また、頻繁に故障するため維持管理費がかかり、安定した供給ができず、加えて水利費の負担割合が違うところも課題になっている。</p> <p>平山地区では、農地の条件が良いとは言えず、後継者不足があり、耕作者も少ない。</p> <p>大沢・佐久山南部地区では、基盤整備済ではあるが、日陰でぬかるみがある。</p> <p>箒川周辺の農地は基盤整備済であるため、条件も良く、今後も貸借が見込める。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>荒町地区では、水の確保のためにもボーリングができれば安定した水利の供給ができると思われるので、個人負担に頼らない方法を検討していく。</p>
<p>平山地区では、貸借の見込める農地にしていくためにも基盤整備の実現に向けた検討をしていく。</p>
<p>大沢・佐久山南部地区について、ぬかるみ等の問題はありますが、基盤整備済の農地もあり、比較的条件も良いため、2名の担い手を筆頭に若い世代へ農地を集積していく。</p>
<p>箒川周辺の農地は、基盤整備済で耕作条件も良いので、他地区の担い手も含め20人くらいの耕作者がいる。今後、農地の貸借を推進しながら、2名の担い手を中心に集積・集約化を図っていく。</p>

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

<p>基盤整備への取組方針</p> <p>農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備の検討を進めていく。</p>
<p>農地中間管理機構の活用方針</p> <p>担い手への集積・集約化を図るためにも中間管理機構を利用した貸借を推進していく。また、中間管理機構対象外の農地についても、市農業公社を通じた貸借を推進していく。</p>